

令和7年度宮崎県農政水産部試験研究評価検討委員会（農産委員会）議事概要

宮崎県では、本県農畜水産業の更なる振興のため「宮崎県農畜水産業試験研究推進構想」に基づき「高度な革新的技術で、生産現場の期待に応える」研究開発等に取り組んでいます。

宮崎県農政水産部試験研究評価検討委員会では、本県農水産業の持続的な発展に貢献できる高度な技術開発を効率的に行うため、各試験場の研究計画及び研究成果等について、有識者等による多角的かつ客観的な評価や意見をいただくことを目的として毎年開催しています。

令和7年10月20日に開催した宮崎県農政水産部試験研究評価検討委員会の議事概要については、以下のとおりです。

1 委員（農産委員会：対象とする分野は、総合農業試験場の試験研究）

蔵留委員、小森委員、佐藤委員、下永委員、竹下委員、長田委員、満平委員
（欠席 吉元委員）

2 議事概要

(1) 継続課題について（報告）

事務局からの報告が行われた。

（主な質疑・意見）

委員から、研究内容を拡充した「サツマイモ基腐病抵抗性品種・系統の栽培特性の解明」に関し、拡充内容について質問があった。

これに対し、試験場から、これまで栽培特性の検討等を進めてきたサツマイモ基腐病の抵抗性品種について、更なる感染リスクの低減を図るため、新たに挿し苗育苗技術の開発に取り組むとの説明があった。

(2) 終了課題について（検討・評価）

終了課題の評価は事務局案どおり承認された。

A評価（ねらいどおり） 11

B評価（継続により成果得られる） 6

C評価（ねらいどおりの成果は得られず） 0

翌年度評価（分析機器不調等による遅延） 3

－（評価対象外（国等外部資金）） 8

（主な質疑・意見）

委員から、水稻の「生産者・実需者ニーズのワンランク上を目指したランクアップ育種」に関し、「南海189号」は高温登熟耐性が「中」であるが、それ以上の高温登熟耐性を持った品種の育成は進めているのかとの質問があった。

これに対し、試験場から、高温登熟耐性が「中」以上のものについても育成中であり、有望系統も出てきているとの説明があった。

(3) 令和8年度新規課題について（意見聴取）

全6課題について原案のどおり進めることで同意がされた。

（主な質疑・意見）

委員から、「輸出を後押しする有機栽培向け晩生品種の育成」に関し、目標としている品種の育成状況について質問があった。

これに対し、試験場から、従前の課題から品種の育成を進めており、現時点で7系統の有望系統を選抜しているとの説明があった。

また、委員から、茶のPRのためには効能や成分を押し出した手法が重要との意見があった。

これに対し、試験場から、GABA（ギャバ）の機能性に着目した烏龍茶の製造技術を開発しており、西臼杵では同技術を活用した烏龍茶が販売されていることから、このような取組を関係者と連携して盛り上げていきたいとの説明があった。